

薬物の誘いに、きっぱりNO! と断る勇気を!

ごあいさつ
茨城県薬物乱用防止指導員協議会
会長 植田 義継

茨城県薬物乱用防止指導員の制度は、1981年(昭和56年)に茨城県覚せい剤乱用防止推進員の名称のもとで発足しました。途中1999年(平成11年)に現在の名称になり、早いもので発足以来40年が過ぎました。その間、私たち指導員は、県民が薬物の乱用の危険性及び違法性に関する正しい知識に基づき行動ができるよう、学校等における教育及び県民に対する啓発を行うものとするという方針の下で長年、啓発活動を展開してきました。そのような中でも現代社会において、危険薬物、覚醒剤、大麻等の乱用はあとを絶ちません。これらの危険薬物乱用は乱用者自身の精神や肉体をむしばむばかりではなく、その薬理作用による幻覚、妄想等から、凶悪な事件や重大な交通事故を引き起こすなど、社会の安全を脅かします。また、それら薬物の不正取引は、暴力団

等の反社会的組織の資金源となることから治安の根幹を揺るがす重要な問題です。特に日本の未来を担うべき大切な青少年の皆さん方にはこのような危険薬物には「ダメ。ゼッタイ」近づかないようにして下さい。甘い誘惑や気軽な気持ちで大麻や覚醒剤などを使用すれば、人間の心も身体もダメにしてしまいます。現在、私達の組織では、高等学校、中学校等で危険薬物防止啓発事業を推進しています。教育基本法は「人格の完成を目指し」での言葉で始まり「平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期す」と記されています。より良き、社会人としての生き方をこの啓発活動教育を通じて官民一体で学ぶことが必要です。人は生まれながらにして、それぞれが素晴らしい資質と心を持って生まれてきています。生命を大切に、それぞれに「小さい花でもいい、自分の花を咲かせましょう」この長く続くコロナ禍社会の中で「薬物乱用」の無い平和で安全な社会の実現を目指して、益々のご努力をお願い申し上げます。

茨城県薬物乱用防止指導員協議会

活動目的：薬物乱用防止を目的とする啓発活動などを行う
指導員数：400人(薬剤師、民生委員・児童委員、保護司、青少年相談員、ライオンズクラブ会員、ロータリークラブ会員などが中心で県知事から委嘱を受けて活動している)
組織：水戸、ひたちなか、日立、潮来、竜ヶ崎、土浦、つくば、筑西、古河の9地区協議会を設置。

活動の様子



土浦市での「6.26 ヤング街頭キャンペーン」の様子。6月26日は国連の「国際麻薬乱用撲滅デー」とされ、その時期には、「ダメ。ゼッタイ。」をスローガンに各地で薬物乱用防止に向けた啓発活動が展開されている。



県内の小中高校で開催されている「薬物乱用防止教室」。各地のライオンズクラブやロータリークラブなどと協力し、薬物の危険性を伝える講演やセミナー、寸劇を取り入れた解説など、学校での啓発活動にも力を入れている。



龍ヶ崎市での「6.26 ヤング街頭キャンペーン」。同キャンペーンでは、メッセージ入りのグッズや啓発チラシなどを配布するほか、啓発キャラクター「ダメ。ゼッタイ。」君の着ぐるみなども活用される。



県立カシマサッカースタジアムに掲出した啓発用の横断幕。若者へメッセージを伝えるため、スポーツイベントなどで標語入りの横断幕を掲出するほか、ポスターやクリアファイルなど、様々なグッズを作成し、啓発活動に役立っている。

薬物のこと、大麻のこと、誤解していると危険です。

薬物乱用とは？

薬物乱用とは、ルールや法律から外れた目的や方法で使用することをいいます。覚醒剤や麻薬は1回使用しただけでも乱用にあたります。

薬物は脳にダメージを与えます

私たちの脳は、すごいスピードで情報を処理し、心と身体をコントロールする優れた仕組みを持っています。しかし、薬物を乱用すると脳の仕組みにダメージを与え、乱用が続けられるなかで様々な障害を引き起こします。そして、一度ダメージを与えられた脳は、薬物を使う前の状態には戻らなくなってしまいます。

主な脳への障害



覚醒剤
幻覚や妄想が現れ、中毒性精神病になりやすい。使用をやめても再燃(フラッシュバック)することがある。大量に摂取すると死に至る。

コカイン
幻覚や妄想が現れる。大量に摂取すると全身痙攣を起こすほか、死に至る。

LSD
強力な幻覚剤であり、極めて微量でも使用すると幻覚症状が表れ、気分が高揚し、不眠状態が続き、体温・心拍数の上昇、頻脈や眩暈等の症状が出てくる。その幻覚症状が原因で精神錯乱や異常興奮になる。

向精神薬
睡眠薬、精神安定剤など医療用として用いられているが、乱用されると精神及び身体へ障害を与える。また、依存により、思考、感覚及び行動に異常をきたす。

大麻
知覚を変化させ、恐慌状態(いわゆるパニック)を引き起こすこともある。乱用を続けると、学習能力の低下、記憶障害、人格変化を起こす。

MDMA
知覚を変化させ幻覚が現れることがある。大量に摂取すると高体温になり、死に至る。

危険ドラッグ
麻薬などに類似した有害で危険な物質を含んでおり、呼吸困難や異常行動を起こしたり、死に至ることもある。

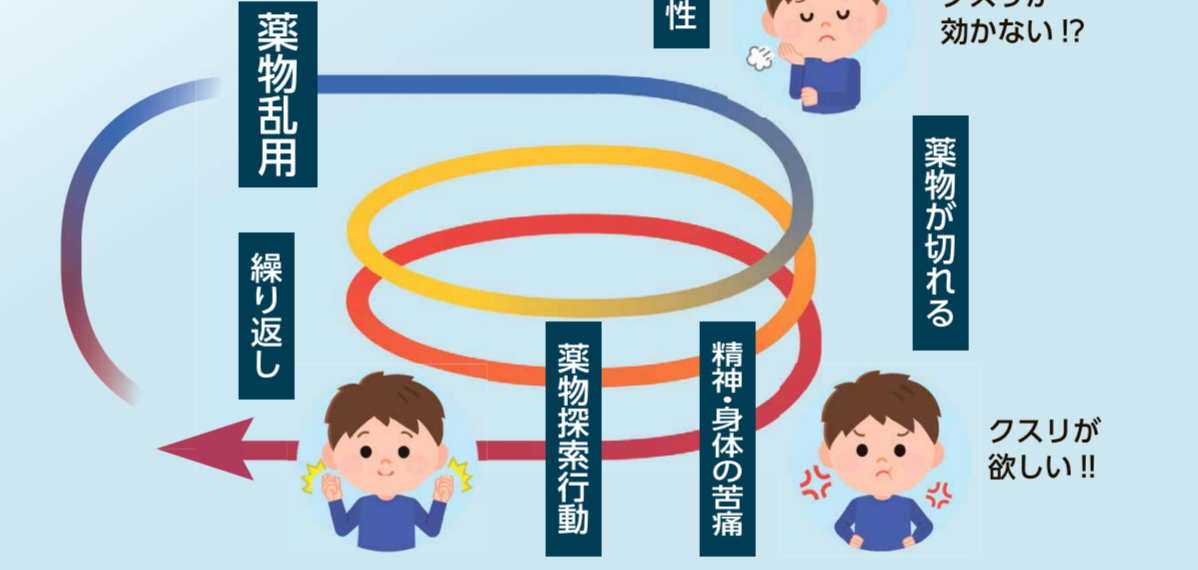
有機溶剤(シンナーなど)
情緒不安定、無気力となり、幻覚や妄想が現れて、薬物精神病になり、大量に摂取すると呼吸困難となり、死に至る。



薬物はやめられなくなるから危険!

薬物は乱用を続けると「耐性」ができて同じ量では効かなくなり、使用量が増えていきます。また「依存性」によって、自分の意志だけではやめたくてもやめられなくなってしまいます。薬物をやめ、通常の社会生活をするまで回復するためには、生涯にわたって適切な治療や周囲のサポートが必要になります。

薬物依存のサイクル



出典：厚生労働省パンフレット「薬物のこと大麻のこと誤解していると危険です!!」(令和4・5年度)より

いま、危険度が増しているのは大麻です!

大麻は薬物乱用の入口です。～ゲートウェイドラッグ～

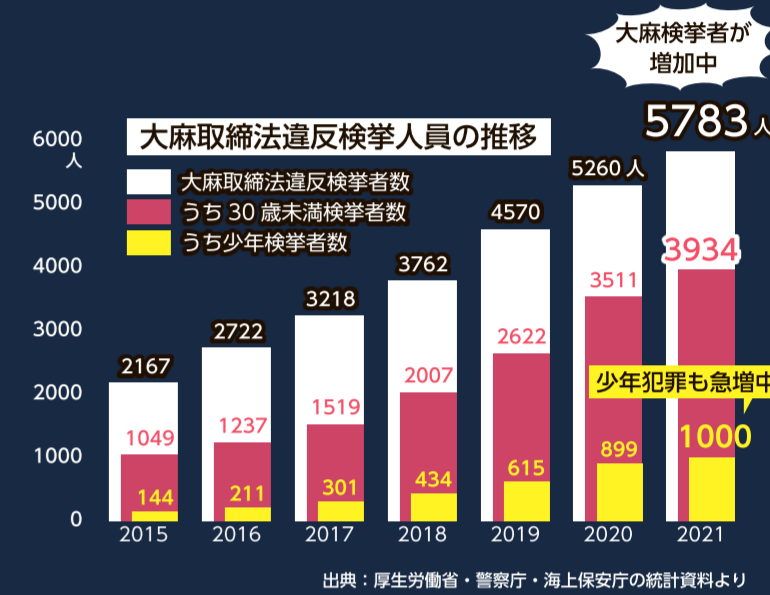
法務省が発した全国の覚醒剤取締法違反による受刑者を対象とした調査によると、対象者が最初に乱用した薬物を、調査した時の年齢層別にみた結果、30歳以上では年齢層が上がるにつれて覚醒剤が増えている一方、30歳未満の若者で

大麻の割合が最も多くなっているという結果でした。軽い気持ちで大麻に手を出したら覚醒剤等の薬物にまで手を出していた、ということにもなりかねません。間違った情報に惑わされて軽い気持ちで大麻に手を出すのは危険です!

出典：令和2年版犯罪白書 一薬物犯罪 (法務総合研究所)をもとに作成

若者の検挙者が急増中!

ここ数年、大麻による検挙者が急増しています。2021年には大麻の検挙者数は過去最多の5,783人となり、そのうち約68%は30歳未満の若者でした。なかでも急増しているのが20歳未満の若者で、2021年には7年前の12倍以上となる1,000人が検挙されています。茨城県内でも、大麻による検挙者数は増えており、2021年には85人と過去最高となりました。年代別の割合は、ほぼ30歳代以下が占めています。



出典：厚生労働省・警察庁・海上保安庁の統計資料より

大麻は身体への悪影響はない→NO 間違いです!

インターネット等で、「大麻は身体への悪影響がない」「依存性がない」などの誤った情報が氾濫しています。しかし、実際には大麻を乱用すると、大麻の花や葉に含まれる成分「THC(テトラヒドロカンナビノール)」が脳に作用して下図のような様々な不具合を引き起こします。特に成長期にある若者の脳に対して影響が強いことも判明しています。間違った情報に流されず、正しい知識で判断しましょう!

大麻の乱用による影響	大麻の有害性	大麻を長く使い続ける影響
知覚の変化 時間や空間の感覚がゆがむ	学習能力の低下 短期記憶が妨げられる	運動失調 瞬時の反応が遅れる
精神障害 統合失調症やうつ病を発症しやすくなる	IQ(知能指数)の低下 短期・長期記憶や情報処理速度が下がる	薬物依存 大麻への欲求が抑えられなくなる

海外で合法だから大麻は安全? →NO 間違いです!

大麻について「海外では合法な国があるから安全だ」という主張を耳にすることがあるかもしれません。しかし、薬物を取り巻く環境は日本と海外では大きく異なります。法律などの規則はそれぞれの国の事情や背景をもとに作られているため、「海外で合法だから大麻は安全」ということではありません。大麻の所持や使用が犯罪にならない国や地域であっても、大麻の有害性の影響を大きく受ける未成年の所持や使用は禁じられています。間違った主張に流されないようにしましょう!

大麻の加工品や大麻を含んだ食品に気をつけて!

大麻から成分を抽出した「大麻リキッド」や「大麻ワックス」など新しいタイプの加工品の開発も増加しています。また、海外でお土産として売られているチョコレートやクッキー、キャンディなどの中に大麻が含まれていることがあります。誤って口にして体調不良で救急搬送された事例も発生しているので十分に注意しましょう



出典：厚生労働省パンフレット「薬物のこと大麻のこと誤解していると危険です!!」(令和4・5年度)より
写真提供：厚生労働省

相談はこちらへ

茨城県精神保健福祉センター相談援助課 (水戸市笠原町993-2健康プラザの後ろの建物) ☎ 029-243-2870 無料

茨城県立こころの医療センター (笠間市相町654) ☎ 0296-77-1151 有料

★薬物相談 毎月第1・3木曜日 午前
★家族教室 毎月第1木曜日 午後

★依存症関連問題外来 予約制
★SMARPP(物質使用障害治療プログラム) 毎週木曜日 午後
★家族教室 毎月第2・4木曜日 午後

薬物乱用防止についてもっと知りたい方は

茨城県保健医療部 医療局業務課 ☎ 029-301-3388
中央保健所 ☎ 029-243-9437
ひたちなか保健所 ☎ 029-265-5645
日立保健所 ☎ 0294-22-4190
潮来保健所 ☎ 0299-66-2116

竜ヶ崎保健所 ☎ 0297-62-2163
土浦保健所 ☎ 029-821-5364
つくば保健所 ☎ 029-851-9295
筑西保健所 ☎ 0296-24-3913
古河保健所 ☎ 0280-32-3023

薬物乱用防止問題について詳しくは厚生労働省ホームページをご覧ください。

厚生労働省 薬物乱用 検索

薬物乱用防止活動について詳しくは「麻薬・覚せい剤乱用防止センター」HPをご覧ください。

ダメ。ゼッタイ。 検索

茨城県の取組について詳しくは茨城県業務課のHPをご覧ください。

茨城県 ダメ。ゼッタイ。 検索

あやしかったらすぐ通報
ひとりで悩まずすぐ相談

あやしいヤクブツ連絡ネット
☎ 03-5542-1865

ウェブサイト
Twitter

あやしい ヤクブツ 検索